

基盤的調査・研究

委員会の主要意見

現状についての評価・質問等

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○モーリシャス座礁事故対応など、突発的な課題に迅速に貢献できたことは、国立環境研究所の基礎研究の幅と質の高さを示したものとして評価する。【年度】 ○琵琶湖分室の存在感と成果が増えてきており、素晴らしい。【年度】 ○社会環境システムでは、環境経済の研究者を繋ぐバーチャルチームを作られたことなどよい試みと思う。【事後】 |
|--|

今後への期待など

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○それぞれに計画に則って、適切に基盤的調査・研究が遂行されており期待以上の成果を得ていると判断した。基盤とプログラムにおける切り口の違いがより明示的であるほうが分かり易いのではないか。【年度】 ○環境監視のためのフィールドワーク、実験・観測装置の開発、各種数値モデルの構築等、基盤となる研究開発を息長く続けていることは高く評価する。研究の進展とともに変更を加えつつその発展に尽くして欲しい。【事後】 |
|--|

主要意見に対する国環研の考え方

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ① 突発的な事案への対処は、基礎・基盤研究の蓄積によるものが大きいと考えております。今後も、基礎・基盤の継続と充実を図って参ります。 ② 琵琶湖分室に関して、今中長期で一定の立ち上げができたのではないかと考えております。次期中長期において着実な発展を目指します。 ③ 環境経済学分野の研究者を繋ぐバーチャルチームへのご評価ありがとうございます。次期中長期でも同様のバーチャルチームを継続予定です。 ④ 期待以上の成果とのご評価ありがとうございます。第5期中長期計画では、基盤的調査・研究と研究プログラムとの違いがより明示的になるような発表を心がけ、研究プログラム以外からの情報発信の推進についても検討いたします。 ⑤ 長期的な基盤的調査・研究の継続について、ご評価いただきましてありがとうございます。今後も長期的視点を取り入れつつ、研究の発展に努めて参ります。 |
|--|